

## モニュメントの建立を決める

### ～平和資料室、実現へ遺族会有志と協力 第5回総会開く～

「市民の会」の第5回総会は23日、鈴鹿市神戸のジェフリーすずかで開かれました。会員ら約40人が参加。モニュメントの建立と平和資料室の設立を中心議題に審議され、新たなチャレンジを誓い合いました。

昨年8月に鈴鹿市で開かれた戦争遺跡保存全国シンポジウムについて、加藤二三子代表は開会のあいさつで「大成功をおさめることができました。この取り組みは私たちの活動を大きく成長させ、今後の活動の指針になると思います」と総括しました。竹内宏行共同代表は活動報告の中で「知事と市長があいさつしたのは、16回を数える全国シンポで初めてのことだそうです。戦争遺跡を文化財とする認識が自治体によってまだまちまちな中、一步前に踏み出す意味を持ったと思います」と話しました。

保存運動にかかわらず取り壊された巨大格納庫の跡地近くにモニュメントを建立する計画が提案されました。4つの柱の上方にらせん状のパイプをめぐらせた高さ6・4m(うち柱部分は2・4m)の構造物。4本の柱は格納庫を、上方の円環は平和をイメージしたといいいます。制作者の彫刻家で飯野高校教諭の三村力さん(58)が20分の1の模型をかかげながら「映画『埋もれ木』の撮影のお手伝いでセットの組んである格納庫に初めて入りました。残念ながらあの静かで古びた空間を包んでいた建物はなくなりましたが、忘れてはならない過去の時間を思いつつ、未来に向かって一步踏み出したモニュメントにしたい」と語られました。

「モニュメント建立募金のお願い」というA5版4ページ(呼びかけ文、制作者の紹介と思い、格納庫をめぐるこれまでの経緯、募金申込書)の冊子も出席者に配られました。目標額は400万円。会員をはじめとした市民、格納庫保存の署名をしてくれた全国の人たち、旧軍施設に戦後進出した企業などに募金をお願いしていくこととなります。会場でさっそく何人かが募金をしてくれました。

この日の総会には神戸地区と国府地区の遺族会の方が初めて参加してくれました。平和資料室について、「場所は決まっているのか、収容できる面積があるのか」と質問があり、竹内代表が「場所はまだ決まっておらず、市と交渉中だが、既存の市の施設の活用について末松市長は大変前向きに考えてくれている」と答えました。遺族会側から「われわれもどういう遺品があるか調べていく」「遺族会の理事会に出て趣旨などを話してもらったらどうか」などの提案があり、平和資料室実現に向け、力を合わせていくことになりました。



模型を手に講演する三村先生

## 【加藤二三子代表のあいさつ(要旨)】

市民の会は2009年、会発足直後に浮上した格納庫保存活動で、市、県、国を巻き込み、戦争遺跡保存の運動の輪を大きく広げてまいりました。

昨年8月には、戦争遺跡保存全国シンポジウム三重県鈴鹿大会を開き、会員のみなさまをはじめ市民ボランティアや全国ネットの方々に支えられ、大成功をおさめることができました。長年、戦争遺跡保存に取り組んできた全国ネットの方々から、大いに学び、刺激を受けた3日間でした。全国大会の取り組みは、私たちの活動を大きく成長させ、今後の活動の指針となるであろうと思います。折しも、昨年は鈴鹿市制70周年の年でした。日本で最初に軍都としてつくられた市の象徴的な軍施設「格納庫群」は私たちの保存運動にもかかわらず、市制70周年を目前に、取り壊されました。しかし、悲惨な戦争の記憶と不戦への思い、平和の尊さを次世代に伝えていくため、象徴するモニュメントの建立を計画しています。

今年は戦後68年目を迎え、戦争体験を持つ世代の高齢化が進み、戦争の記憶は人から物へと、物証によって語られるようになってきています。その戦争遺跡も土地開発や老朽化、風化などで消滅しかかっており、戦時中の遺品も高齢化や世代交代などにより失われつつあります。

鈴鹿市の誕生の歴史を学び、次世代の平和のために先の戦争を伝え、学び、記憶し、歴史の教訓として役立てることを目的とした平和資料室設立に向けての取り組みにも、力を注いでいきたいと思っています。



挨拶をする加藤共同代表

## 旧海軍基地跡地にモニュメント 鈴鹿で市民団体

「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」(加藤二三子、竹内宏行共同代表)は、鈴鹿市が市内の旧鈴鹿海軍航空基地跡地に整備する防災公園に、平和への祈りを込めたモニュメントを設置する。制作費は約400万円を見込む。23日の「市民の会」の総会で可決されたら、広く募金を呼びかけるという。

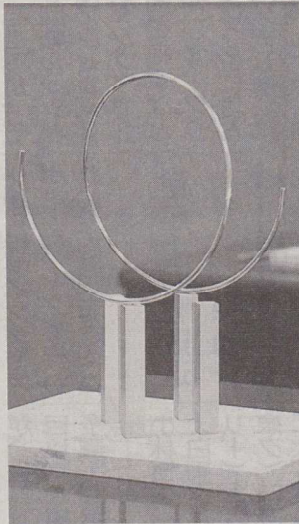
タイトルは「地・天」。高さ6・4メートル、幅4メートル、御影石の柱にらせん状ステンレスパイプを配置する。県立飯野高校教諭の三村力さん(58)に頼み、来年3月末までに制作してもらい、同公園入り口に設置する予定。三村さんは「忘れてはならない過去の時間を思いつつ、未来に向かって一歩踏み出していく思いをこめたモニュメントにしたい」としている。



モニュメント  
「地・天」の模  
型—鈴鹿市提供

朝日新聞  
3月21日

# 市民団体が募金活動



制作されるモニュメントのミニチュア—鈴鹿市で

## 旧鈴鹿海軍航空隊跡地に記念碑建立へ

鈴鹿市の市民団体「戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」が、旧鈴鹿海軍航空隊跡地に整備中の市営公園内に、モニュメントを建立する。制作・設置費を賄うための募金活動を近く始める。同会共同代表の竹内宏行さんは「モニュメントを通じて若い人にも歴史の重みを感じてほしい」と

呼び掛ける。軍都として誕生し、旧軍施設が今も残る鈴鹿市で、戦争の記憶や平和の尊さを次世代に伝えようと計画された。モニュメントは「地・天」と題し、旧航空隊の格納庫や飛行、平和をイメージ。全体の高さが6・4メートル、幅4・0メートルの巨大な構造物（7・センチメートル）。

で、御影石の柱を四方に配し、らせん状のステンレスパイプを乗せる。彫刻家で、県立飯野高校教諭の三村力さんに制作を依頼。14年3月の完成を目指して鈴鹿市玉垣・白子地区で整備が進む新公園の南端に、旧航空隊の番兵塔や碑と並んで設置される見通し。モニュメントは完成後、市への寄贈が決まっている。

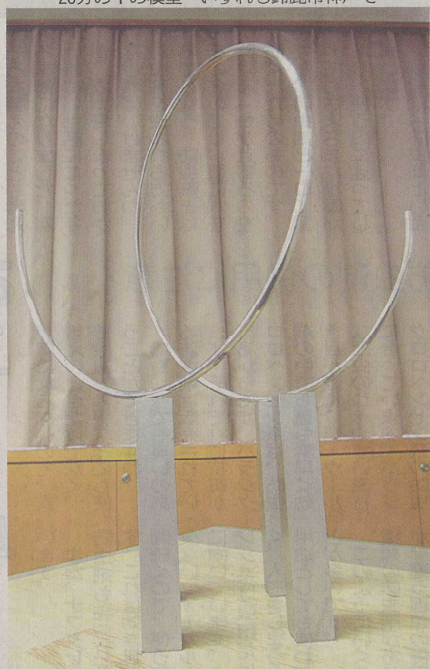
募金活動は23日の定期総会で承認を得て正式に始める。制作・設置費400万円を集めたい考え。個人1000円、法人・団体5000円から。問い合わせはもう一人の共同代表、加藤二三子さん（059・387・3226）。

【岡正勝】

2013年(平成25年)3月24日(日曜日)

旧鈴鹿海軍航空隊跡地に建てる記念碑の20分の1の模型—いづれも鈴鹿市神戸で

# 不戦の思い次代に



る来年三月まで募る。二十三日にジェフリ（鈴鹿（神戸）で開いた総会では、三村さんが模型を手に、「忘れてならない過去と、未来に向けて踏み出す思いを込めたい」と記念碑の概要や制作方法を説明。会が保管する格納庫の部材を展示するため、戦没者の遺品を所有する市内の遺族会有志と協力し、資料室の設置を市に働き掛けることも確認した。

市民団体「鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会」が、旧鈴鹿海軍航空隊跡地（白子町）に整備される市防災公園に、巨大なモニュメントを建てる。二十三日に総会を開き、費用を賄う募金を始めた。会員たちは「鈴鹿の歴史を象徴する記念碑にしたい」と話している。（鈴木智重）

## 市民団体、寄付募る

会は、跡地にあった「頼し」。

三棟の航空機格納庫を「地・天」と題し、高さ残そうと運動を展開し、六・四メートル、幅四メートル、二年前に取り壊しに配した御影石の柱のされた。七十年前、鈴鹿上に、らせん状のステンレス製パイプを載せた。平和の尊さを、柱は格納庫をらせん状の飛行機をイメージした。柱は格納庫をらせん状の飛行機をイメージした。柱は格納庫をらせん状の飛行機をイメージした。

総会



記念碑について説明する三村力さん

の許可を得ており、設置後市に寄付する現に伝えたい。広く協力をの場所から北に十メートルほど移設される旧航空隊の番兵塔や石碑と並ぶ予定だ。寄付は、円、法人・団体が五千円、個人が五百円。問い合わせは、加藤二三子さん（059・387・3226）へ。記念碑が完成する（87）3226118。

# 平和記念のモニュメントを

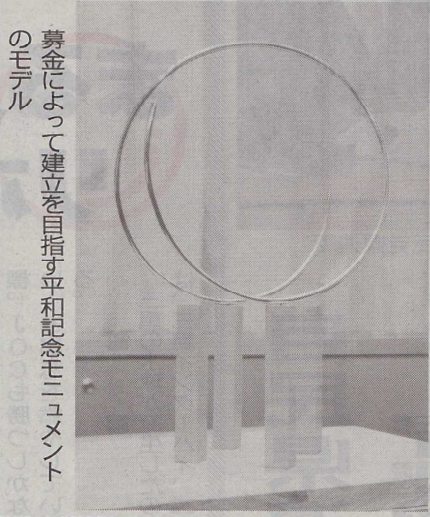
## 鈴鹿の戦争遺跡保存の会

### 市防災公園に建立計画

【鈴鹿】鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会（加藤二三子、竹内宏行共同代表）は二十三日、同市神戸二丁目のシェフリーアで第五回総会を開き、同市白子町のNTT研修センター跡地に整備計画中の市防災公園内に、平和記念モニュメントを建立する計画を報告した。

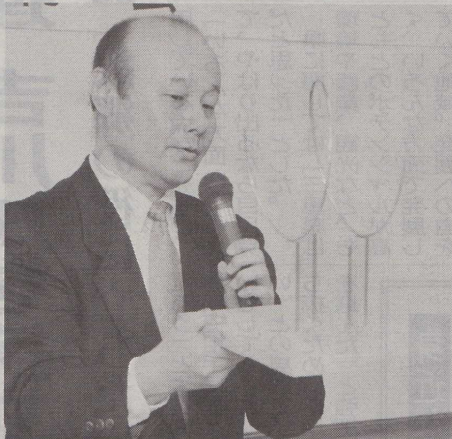
モニュメント建立は、旧鈴鹿海軍航空隊施設用地だった同跡地の存在を後世に伝えるのが目的。デザインは同市三日市町在住の飯野高校教諭で彫刻家の三村力さん（五十）に依頼。白御影石製の四本の柱の上に、らせん状のステンレス製パイプを載せ、完成時の大きさは幅四段、奥行き二・六段、高さ六・四段を予定している。

四本の柱は取り壊された旧海軍航空隊格納庫を、らせんを描く造形は飛行機の軌跡と、永遠の平和に向けた



募金によって建立を目指す平和記念モニュメントのモデル

てより良い方向に進む未来への思いを表現。制作した三村さんは「忘れてはならない過去の時間を思いつづいて、未来に向かって踏み出す思いを込めた」と話した。総会では、来年三月の建立に向け、四百万円を目標



モニュメントのデザインについて説明する三村さん＝鈴鹿市のシェフリーアで

に募金を募るとしたほか、格納庫の部材や市内遺族会から提供を受けた遺品を展示する資料室設置に向けた働き掛けをすることなどが報告された。

元は軍事施設用地だった同跡地をめぐる、同会は格納庫施設などの遺構を戦争遺跡として残そうと保存運動を展開。維持管理費用などの問題から施設撤去が決まった後も、戦争の記憶風化を防ぐと方法を模索してきた。

共同代表の加藤二三子さんは、「格納庫保存の思いはかなわなかったが、モニュメントに平和への思いを託していきたい」と話した。

募金は個人一口二千円から、団体・法人は一口五千円から募る。問い合わせは同会へ電話059（387）3269＝。

伊勢新聞 3月24日

鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会

代表 加藤二三子、竹内宏行

〒510-0254 鈴鹿市寺家1-2-47

電話 059-388-6508

メール ta818hi@mecha.ne.jp

HP <http://www006.upp.so-net.ne.jp/asao/peacesuzuka.htm>